

<活動の概要>

科研「描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発」について調査と研究会を実施した。

プロジェクトとして「Collaborative Design Research Project」を学外との協働活動を実施した。また、文具メーカーとの共同研究を実施した。

大学間連携として6大学連携企画LED.実行委員会を実施、名古屋大学Common Nexusアンバサダー、一橋大学社会科学高等研究院(HIAS)との大学間連携「データから地域の未来をデザインする『SDGs×データサイエンス2025』」準備を実施。

産学連携「生成系AIを活用したビジネス挑戦プラットフォームによる企業、個人価値創出WG」を実施した。

社会活動として、名古屋芸術大学にて非常勤講師「インターメディア表現」の授業を担当した。

<学内活動>

1 科研「描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発」

近年進化の著しい描画支援技術に対応するためにヴィジュアル・リテラシーを再定義することと、再定義に対応した教育プログラムを試作・評価する。従来は基礎的な知識を習得したのちに表現を作り出すという一定のプロセスであったが、描画支援技術（生成AI）の急速な進化は基礎的なプロセスを飛ばして、一気に表現を作り出すことを可能にした。この新しい表現方法について、既存のヴィジュアル・リテラシー研究は対応ができていない。そこで、本研究グループがこれまで進めてきた研究を描画支援技術に対応した形に拡張する。ヴィジュアル・リテラシーを再定義し、具体的な教育プログラムを施策し実証する。

まず描画支援技術とヴィジュアル・リテラシーとの関係に関する文献調査を進めた。生成された描画結果をどのように扱うのかという視点ではなく、支援ツールとしての生成技術としての可能性に着目することとした。そこで、スケッチの支援に関する調査を実施した。

研究会実施

2024年3月15日（神奈川工科大）	2024年6月14日（オンライン）
2024年8月19日（HUB GUJO）	2024年12月13日（オンライン）

2「Collaborative Design Research Project」

デザイン思考などのデザイン方法論について、実効する人やその経験則、対象としたフレーム自体の設定、あるいは提案した解決方法自体の影響も含め、方法論自体に関する検証の時期に来ている。社会性や人々の価値観の変化も踏まえ、新たな問いのあり方やデザインプロセスが関わる影響や



その範囲についてを検討する必要がある。デザインは課題解決に対する一つのツールではなく、デザインに関わるプロセスの中で、課題との関係性を再検討しなければならない。これまでの原因と結果に基づいた近代的デザイン方法を乗り越えるためにも、全体性やその影響なども含め試行し、デザインする人とデザインする対象との関係を考え、社会とデザインが影響する範囲を検討したい。

そこで本プロジェクトでは、地域や企業と対話を進め、デザインの役割について調査していく。互いが交差するプロトタイピングや共同研究へ向けた前段階の対話も含め、フレームの設定やビジョンの共有やプロセスの理解も含め、それぞれの関わりについて調査する。デザインと実際の対象間をブリッジさせ、その上に立ったことで得られる新しい視点を通して、今後のデザインについて検討する。

研究代表：鈴木宣也 研究分担：赤羽亨

- 1 大垣市共同研究「イアマスこどもだいがく」
- 2 広葉樹活用「飛騨家具ーパラメトリックデザイン」
- 3 共同研究「岐阜外国人支援」

3 文具メーカー共同研究

文具メーカーとの共同研究を実施している。現在研究中であり公開できないため、終了後あらためて報告する。

研究代表：鈴木宣也 研究分担：赤羽亨

4 学外プロジェクト：「クリスタル広場ビジョン 7 大学連携企画 LED. 実行委員会（Leading Educational group for Display research）」

2019 年 11 月に新しくなった大同特殊鋼 フェニックス スクエアの LED 柱は、これまでの平面大型 LED ディスプレイとは異なり、柱 4 面をディスプレイとした立体感のあるオブジェと表示装置を組み合わせた新しい映像装置である。また 4 本の柱により映像空間が作られ、公共の場において新たな映像空間体験のできる貴重な場でもある。そのような新しい映像空間の可能性を念頭に、愛知・岐阜の映像メディアを専門とする 6 つの大学が集まり、それぞれの学生がこの LED 柱を使った思い思いの表現へ取り組んだ。今年度で 5 年目を迎え、これまでの実験的な試みから、今年度は「サカエチカメディアアートコンテスト」と題し、コンテスト形式にて実施した。今年度のテーマは「未来／夢／栄」の 3 つの中から選び、映像へ展開する。多様な表現が生まれ、この LED 柱の可能性を広げた。新たな表現媒体へ学生が触れる良い機会であるとともに、大同特殊鋼 フェニックス スクエアを訪れた方々へ新たな体験の機会を提供した。

日時：2024/01/11-2024/02/02

場所：クリスタル広場ビジョン

参加大学：

- ・愛知淑徳大学 ・情報科学芸術大学院大学 ・椋山女学園大学
- ・名古屋学芸大学 ・名古屋芸術大学 ・名古屋造形大学



5 その他

5.1 共著論文：浅井 睦, 木村 優太, 奥脇 陽介, 鈴木 宣也「Share of Ambient: オーディオヴィジュアルイズを利用したコミュニケーションシステムの効果」情報処理学会、インタラクシオン 2024、1C64、2024

5.2 共著論文：Asada, H., & Suzuki, N. . The possibility of affective support on sustainable cultural inheritance of luthier through violin visualization technology. The KEER 2024 International Conference on Kansei Engineering and Emotion Research Proceeding, 677-685.

5.3 共著論文：Asada, H., & Suzuki, N. . Study on the impact of violin visualization technology on luthiers and the possibility of affective support. International Symposium on Affective Science and Engineering, ISASE2024. <https://doi.org/10.5057/isase.2024-C000032>

5.4 共著論文：Asada, H., Suzuki, N., & Inoue, M. . The Possibility of Scientific and Affective Support Expected by Luthiers in Violin Design. International Journal of Affective Engineering, 23(3), 299-308. <https://doi.org/10.5057/ijae.IJAE-D-23-00018>

< 学外活動 >

1 非常勤講師：名古屋芸術大学「インターメディア表現」

日時：2024/11/1-2025/01/31

内容：デジタル表現では、サウンドが、グラフィクスなど他の表現媒体とともに使われ、文学や映画、パフォーマンスなど、多岐にわたった表現に用いられており、それらを複合的に使うことで表現が拡張されてきた。媒体を横断するインターメディアの多様な表現をテーマに、コミュニケーションの可能性について、制作を通して理解する。

2 産学連携「生成系 AI を活用したビジネス挑戦プラットフォームによる企業、個人価値創出 WG」

3 大学間連携：一橋大学社会科学高等研究院 (HIAS)「データから地域の未来をデザインする『SDGs× データサイエンス 2025』」実施準備

<社会活動>

1 ソフトピアジャパン理事

2 岐阜県国民文化祭企画委員会委員

3 岐阜県国民文化祭実行委員会委員

4 ぎふメディアコスモス運営委員

5 岐阜県 DX コンソーシアム理事

6 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜運営協議会委員

7 名古屋大学「Common Nexus」アンバサダー